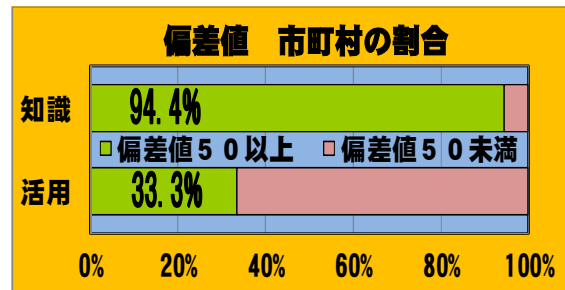
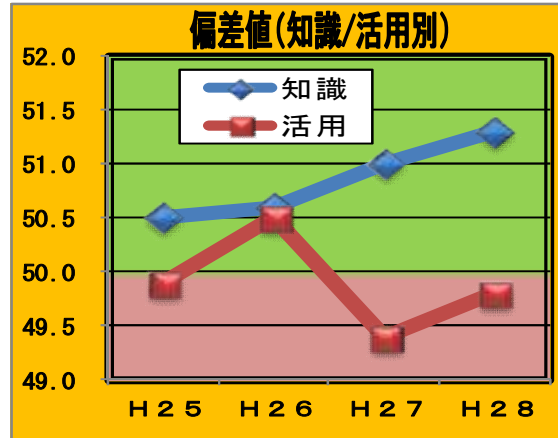


平成28年度 大分県学力定着状況調査結果（中学校：国語）

1 結果のポイント

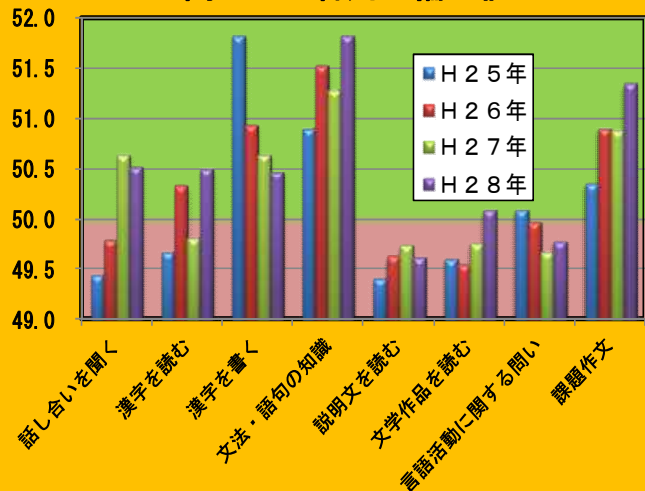
- ・偏差値は、知識 51.3、活用 49.8 で、昨年度の偏差値（知識 51.0、活用 49.4）を上回った。しかし、当該学年が、小学校第5学年（平成25年度）時の偏差値（知識 51.4 活用 50.2）を下回っている。
- ・目標値に到達した生徒の割合は、知識 73.2%、活用 53.0%で、昨年度の知識 61.7%、活用 50.2%を上回った。また、小学校第5学年時の知識 69.6%、活用 52.7%を上回った。
- ・知識に関する設問において、偏差値 50 を超えた市町村数は全体の9割を超えるが、活用においては全体の1/3に留まっている。
- ・活用に関する設問で目標値を上回ったのは、6/7問である。
- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、正答率は目標値を上回り、偏差値も 50 を上回った。
- ・文学的文章に関する問いについては、本調査開始以来初めて偏差値 50 を上回った。
- ・説明的文章に関する問いについては、偏差値 50 を下回っている。科学的内容を含む文章を素早く読む力等の育成が求められる。
- ・大問6は言語活動（調査を基に新聞にまとめる）を想定した問いが出題された。言語活動を想定した問いについては、昨年度に引き続き偏差値 50 を下回った。課題解決的な展開の授業（言語活動が設定された単元の実践）をさらに推進する必要がある。
- ・大問7のテーマや条件に沿った文章を書く設問については、偏差値 50 を上回っている。



領域別の正答率と偏差値

領域	正答率		偏差値
	大分県	目標値	
話すこと 聞くこと	77.2	71.3	50.5
書くこと	82.7	74.0	51.4
読むこと	66.5	61.4	49.8
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	78.1	71.3	51.3

問いの内容別の偏差値



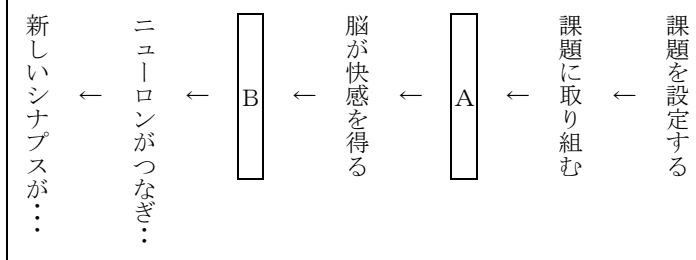
2 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 読むこと（説明的文章）（茂木健一郎「脳の上手な使い方」から出題）

①説明的な文章の展開に即して、内容を整理する。＜指導事項・読む—イ・エ＞

（正答率 58.4% ・目標値 50.0%）【活用】

4 (3) 強化学習のサイクルについて、次のようにまとめました。
・にあてはまる言葉の組み合わせとして……



- ・昨年度も同様の設問に課題が見られた。
- ・文章の展開をとらえる力、目的に応じて要約する力が求められる。
- ・段落を順序よく詳細に読むだけで付けられる力ではない。この設問の場合、要約する観点として「強化学習のサイクル」が与えられ、要約の方法として文章ではなく、表にまとめるということをとっている。
- ・生徒にとっては、「強化学習のサイクル」を「ドーパミン」「ニューロン」「シナプス」という普段の生活ではあまり使用しない言葉を使って、まとめなければならず、それぞれの言葉の意味や関係性を的確に捉えながら、考えるところに難しさがある。
- ・授業においては、漠然と要約するのではなく、目的、方法や条件を細かく設定した要約させる必要がある。
- ・また、教材についても科学的な説明的文章を選び、未知の言葉を、既知の言葉を使用して考え、捉えていく学習が求められる。

②説明的な文章の構成や展開をとらえる。＜指導事項・読む—エ＞

（正答率 63.4% ・目標値 60.0%）【知識】

4 (3) 文章中の・段落の役割について説明した文として、最も適切なものを、

- ・H24～26年度の全国学力・学習状況調査でも課題としてあげられているが、「文章の構成や表現の仕方などについて自分の考えをもつこと」に課題がある。
- ・この力を付けるために、書き手が文章を書こうとした目的や意図、それに応じた表現の工夫について丁寧に分析するように指導する必要がある。

(2) 読むこと（文学的文章）（椰月美智子「14歳の水平線」から出題）

①登場人物の言動の意味などを考え、内容を理解する。＜指導事項・読む—イ＞

（正答率 57.9% ・目標値 60.0%）【活用】

5 (3) この文章を読んだ岡崎さんと大泉さんが、次のように話し合っています。・にあてはまる言葉の組み合わせとして……

岡崎「『おれ』の感想文の書き方は間違っていたのかなあ。」
 大泉「いや、そんなことはないよ。……目のつけどころが違うだけだと思う。
 『おれ』はという読み方をしているよね」

- ・「おれ」とタオの本の読み方を、文章中から探し、その組み合わせとして正しいものを選ぶ設問である。ただし、選択肢にある言葉は本文中にある言葉だけでなく、別の言葉で言い換えたり、一定の分量の文を要約したりしている言葉もある。
- ・事象や行為を表す多様な語句、抽象的な概念を表す語句等についての力も併せて求められる。

(3) 読むこと (言語活動に関する問題)

- ① 文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ。＜指導事項・読む一エ＞
 (正答率 63.1%・目標値 60.0%) 【活用】
- ② 文章の内容に合った写真を示す場面を理由とともに述べる。＜指導事項・読む一イ・カ＞
 (正答率 71.0%・目標値 65.0%) 【活用】
- ③ 修正前後の文章の内容を読み比べて、書きかえた意図を考える。＜指導事項・読む一イ・オ＞
 (正答率 58.8%・目標値 55.0%) 【活用】

6 岩崎さんは「和食」について調べ、新聞にまとめることにしました。

<p>「和食」は、地理的な多様性をもつ日本だからこそ手に入る、新鮮で多様な食材を活用しており、バランスよく健康的な食生活の基本とされている。また、自然の尊重といきそう日本人の精神の基礎となる考え方にとつとつて、自然の美しさを盛り付けるにいかしている。さらに、正月や七五三などの行事とも……</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">和食新聞</p> <p style="text-align: center;">世界が認めた和食</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">和食の特徴と文化</p> <p style="text-align: center;">④ ③ ② ①</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">失われる日本の食文化</p> </div>
--	---

【資料】

【下書き】

(1) 岩崎さんは、【下書き】の「世界が認めた和食」の部分を書くときに、【資料】を参考にして書きました。【資料】と見比べてわかる【下書き】の書き方の工夫として、最も適切なものを……

- 1 自分で調べたデータを、【資料】の内容を裏付ける根拠として追加して書いている。……………13.8%
- 2 【資料】の言葉を引用するときには、「 」を使って書いたうえで出典を書いている。……………16.3%
- 3 【資料】の内容を整理して、要点を順序立ててまとめて書いている。……………63.1%
- 4 初めに自分の考えを述べ、その理由を【資料】をもとに書いている。……………5.6%

(2) 岩崎さんは、【下書き】の「和食の特徴と文化」の部分を発表するとき、写真を示しながら話すことにしました。次の写真は、どこで示すとよいですか。解答用紙()に和食の特徴の①~④のどこで示すとよいかを書き、その理由を「なぜなら、」に続けて、二十五字以上、三十五字以内で……



(3) 岩崎さんは、【下書き】の□の部分に次のように書き直すことにしました。岩崎さんは、なぜ書き直したと考えられますか。

・説明的文章の指導においては、要旨を捉えるだけでなく、得られた情報と非連続テキストの情報とを合わせて考えたり、記述や論の展開の特徴について考えたり、内容から筆者の意図を捉えたりするといった様々な力を付けることが求められる。ゆえに順序よく詳細に読解するという指導ではなく、目的に応じて内容を整理する、必要に応じて引用する、複数の資料を比較する、別の言葉で言い換える、等様々な活動が必要である。

- ・当然、付けるべき力は、知識として学ぶのではなく、言語活動を行う中で培われるものである。付けたい力を付けるための言語活動を単元に位置付けた実践を行わなければならない。
- ・右に示す「授業アイデア例」等を活用しながら、単元を構想することが望まれる。

「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例(H25年度)」から

「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例(H27年度)」から

(4) 漢字の知識について

- ・漢字を書くことについて、課題が見られる。

2 (2) ②私の技術はミジユクだ。(正答率 47.5%)

- ・「未」のみ正しく書いている ……9.0%
- ・「熟」のみ正しく書いている場合…14.1%
- ・無解答…22.0%

③パソコンの操作にナれる。(正答率 55.1%)

- ・無解答…34.7%

- ・②については「未」を「末」等と誤る、「熟」を「塾」と誤るといった、形の似ている漢字と混同して覚えていることなどが考えられる。
- ・③の無解答率が高いのは、「慣」を訓として使用することがあまりないためと予想される（「『習慣』を書け」という問いには対応できると予想される）。
- ・漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。日常的に学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。

(5) 伝統的な言語文化について

3 (3) 次の一線部を、現代仮名遣いに直して、すべてひらがまで書きなさい。(正答率 53.1%)

- ・入門期は、古典文学を音読して、古典の世界に触れることが大切であるので、その基礎として訓読の仕方等を正しく理解させることが非常に大切である。

3 (4) ある班で、「良薬は口に苦し」という故事成語について次のような意見が出ました。言葉の意味を正しくとらえているのはだれですか。(正答率 50.4%)

「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例(H26年度)」から

- ・ことわざや故事成語等を知識として覚えていくことは重要である。しかし、語彙を増やすためには、実際の生活の中でどのように使用するのか、どのような場面で使用されるのか等についても併せて学習すべきである。
- ・右のような授業アイデア例を参考に、言葉の学習についても言語活動が可能である。

3 指導の改善のポイント

(1) 更なる言語活動の充実

①国語科は、児童生徒に付けたい力を付けるために、言語活動を単元全体で取り扱い、言語活動を通して指導事項を指導する教科である。言語活動を設定した授業改善が進みつつあるが、今後も、更なる言語活動の充実を図り、不断の授業改善を推進していくという方針は不変である。

※伝統的な言語文化や国語の特質に関する学習の際、取り立て指導を行うことは有効な手段である。しかし、基礎基本の積み上げだけでは活用する力は向上しない。

「単元を通して課題解決をめざす言語活動」を設定した時間数と割合 (平成26年度実施分)					
時間数	0～50	51～80	80～104	105～139	140以上
学年					
第1学年	35.2%	25.6%	17.6%	12.0%	9.6%
第2学年	34.6%	26.0%	18.1%	12.6%	8.7%
第3学年	42.5%	29.9%	14.2%	12.6%	0.8%

②中学校国語科においては、付けたい力（指導事項）を明確にした単元が構築されるなど授業改善が進みつつあります。しかしながら、以下のような問題点が見られることが多い。

- ▼言語活動が当該単元で付けたい力にふさわしいものでないこと
- ▼単元の評価規準と指導過程の評価規準に整合性がないこと
- ▼課題解決的な言語活動を設定しているように見えても、教師主導による詳細な読解から脱却

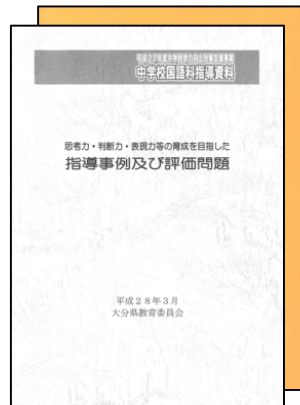
その解決のための基礎作業として、教育課程編成時に、

- ①マトリクス型の年間指導計画を作成し教材と指導事項を確認すること
- ②学習指導要領の言語活動例の確認すること

の2点は、必ず行うべきものである（①は年度内に随時見直しを行うことも重要）。

③また、望ましい言語活動や具体的に付けるべき力をイメージするために、

- 全国学力・学習状況調査の調査問題
- 「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」
<http://www.nier.go.jp/jugyourei/>
- 中学校国語科指導資料（県教委作成）
- 公立高等学校入学者選抜学力検査等を参考にすることも必要である。



(2) 多様な図書資料等を活用する授業の推進

- ・目的に応じた言語の能力を身に付けさせるために、国語科の教科書だけでなく、多様な図書資料等（書籍、新聞、その他のメディアからの情報）を用いることが必要である。
- ・多様な図書資料等を活用する中で、例えば必要な情報を素早く見付ける読みや、必要な部分のみを詳細に分析する読みの指導が可能となる。
- ・自分の考えを深めたり広げたりするためにも学校図書館等を利活用し、多様な情報を関連づけて読むことに指導に当たることが必要である。学習指導要領の言語活動例を参考にし、情報を活用して、条件に応じて自分の意見や考えを表現する活動の充実を図るとともに、考えを深めたり広げたりする「交流」の場を単元の中に効果的に位置付ける指導が求められる。

例 本の帯やポップ作り ブックトーク ポスターセッション

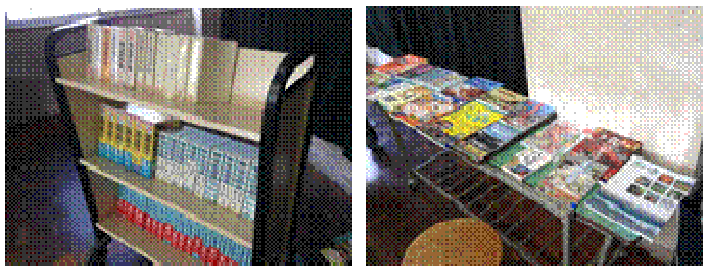
- ・また、不読者をゼロに近づける取り組みが必要である。

質問紙 「あなたはこの1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。」（単位は%）

	0冊	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10	11～20	21～30	31以上	その他
県(28年度)	21.1	38.1	18.5	8.2	3.6	3.9	3.0	1.1	2.1	0.2
県(27年度)	17.3	39.9	19.5	8.8	4.1	3.8	3.3	1.1	1.9	0.3
県(26年度)	17.8	38.6	19.9	9.4	3.9	3.8	3.3	1.2	2.1	0.1

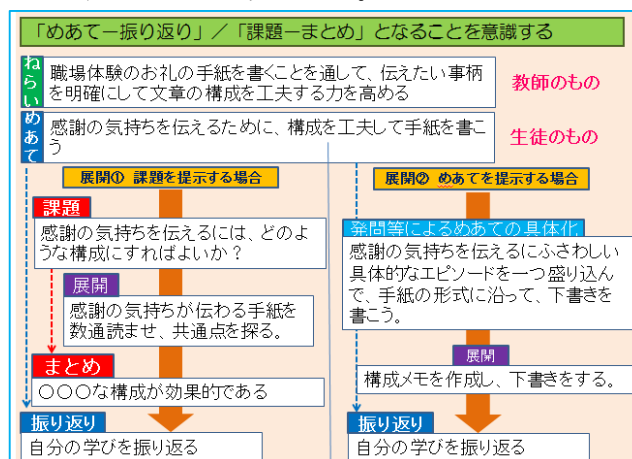
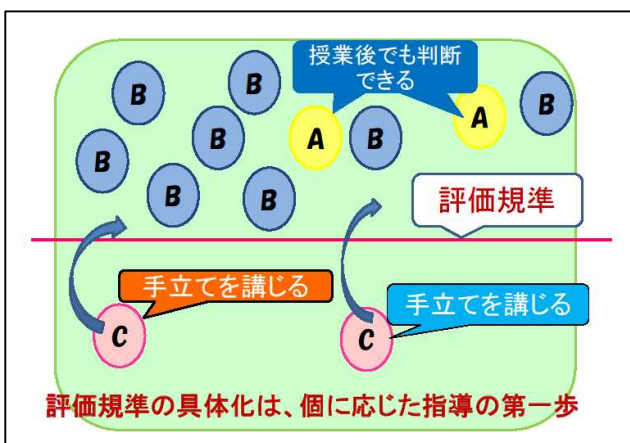
1か月で1冊も読まないいわゆる「不読者」の割合は、昨年度から大幅に増加した。まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な生徒の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。また、豊かな思考には豊かな語彙形成が不可欠であり、それを促すという視点で、読書指導を見直すことも必要である。

- また、言語活動を取り組むために必要な事典や辞書が生徒の手に取りやすい場所に設置することも必要である。



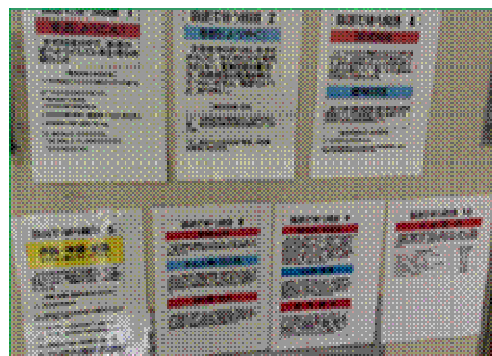
(3) 「めあて」の設定や指導にいかすことができる「より具体的な評価規準」の設定

- 単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、より具体的な評価規準（概ね満足できる状況）を設定することが求められる。
- この具体的な評価規準から本時のめあてを設定すること、また、評価規準に基づき、「C 努力を要する状況」の児童を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。
- 学習の見通しをもたせ、学習の意味づけをさせることは有効であることから、「めあて—振り返り」、「課題—まとめ」を提示したり、考えさせたりすることは大切である。



(4) その他、国語科授業で取り組むべきこと

- 必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。また、どのように思考するのかをきちんと理解させるためにも、例えば「要約」とはどのようなことであるのかを理解しておく必要がある。
- 少なくとも、中学校で使用教科書に掲載されている学習用語は、その学年で確実に理解させることが大切で、既習の用語は授業で使わせ、指導者があいまいな言葉を使わないようにしなければならない。
- また、小学校現場で行われているような学習用語の掲示も有効な取り組みである。
- 言語活動の成果物を掲示や展示することも効果がある。作成したものを互いに見ることで、励みになるとともに、ものの見方や考え方が広がる契機もなる。
- 必要や目的に応じて、様々な記述をする活動をするのが求められる。記述は、「書くこと」の指導だけでなく、3領域の力を向上させるのに効果がある。



例（話す・聞く）インタビュー等の取材メモ、スピーチ原稿等

（書くこと）鑑賞文、図表などを用いた説明・記録、案内、意見文、批評文

（読むこと）文章を読んで解釈し、自分の考え（感想や意見、評価、批評等）を明確に書くこと。目的に応じて本文を引用したり要約したりすること。

- ・また、「活用」に課題がある場合に求められる工夫として、条件に即応して記述しなければならない場面を設定することがある。時間・字数・文章の形態や種類・文体（常体・敬体・一人称・三人称等）・テーマ・対象・使用語彙・要約・引用・例示・技法（反復・倒置・比喩・反語等）・構成等、条件を踏まえる必然性のある活動を設定する。

(5) 学校全体で取り組むべきこと

①漢字や語句、文法、表現技法等の習得

- ・漢字や語句、文法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。

②全校一斉読書や各教科における学校図書館の活用

- ・様々な力を下支えするものとして、活字に親しむことが必要である。その際、文学的文章だけでなく科学的な読み物等にも手を伸ばすように指導する必要がある。
- ・また、学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる（【例】各新聞社から配信されるワークシートを短時間で行う）。そのために、国語科だけでなく、各教科や領域において、図書館の利活用の推進をしなければならない。



大分合同新聞のN I Eのページより

(<http://www2.oita-press.co.jp/nie/worksheet/>)